第196回 長崎大学FD実施報告書(令和元年12月23日提出)

- 1. 題 目:長崎大学メンタルヘルス講演会
- 2. 日 時:令和元年11月28日(木)16:10~17:30
- 3. 場 所:長崎大学文教スカイホール
- 4. 主 催:長崎大学学生相談支援等協議会
- 5. 対 象:全教職員及び学外者
- 6. 長崎大学FDに関する申合せ第2項への該当について【複数選択可】 (該当するものに○を記入すること)
 - [](1) 教員の教育活動に関するもの
 - [](2) カリキュラムの改善に関するもの
 - [](3) 教育の組織的改善に関するもの
 - 「 (4) 入学者選抜方法の改善に関するもの
 - [](5) その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの
- 7. 今回のFDの趣旨・意義(6. に関連した形で記述すること)

発達症(発達障害)には、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如・多動症(ADHD)、限局性学習症(SLD)、発達性協調運動症(DCD)など様々な種類があり、それぞれが高率に併存していることが知られている。現在、小中学生の10人に一人は発達症の傾向を持つ可能性が指摘されており、大学生の中にもこのような傾向を持つ人が少なからず存在すると考えられているが、様々な理由で合理的配慮の申請が行われていないケースも多いと思われ、そのような状況を想定した授業構築が求められている。

今回、発達症をもつ大学生の「困難さ」を理解し、「強み」を活かす授業構築のあり 方を具体的に解説する。

8. プログラム構成 [題目・担当講師] (当日使用した資料等を添付すること)

構成:講演-90分(質疑応答含む)

「題目・担当講師〕

題 目:発達症を知る-「困難さ」を理解し「強み」を活かす授業構築-

担当講師:長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部 今村 明 教授

9. 参加者:133名

(内訳)

| 所 属 | 人数 |
|------------------|-------|
| 大学教育イノベーションセンター | 1 |
| 保健・医療推進センター | 1 1 |
| 障がい学生支援室 | 4 |
| ダイバーシティ推進センター | 3 |
| 学生支援部 | 1 2 |
| 地方創生推進本部 | 2 |
| 財務部 | 2 |
| 研究国際部 | 1 |
| 学術情報部 | 1 |
| 総合生産科学域事務部 | 1 |
| 生命医科学域・研究所事務部 | 5 |
| 教育学部 | 5 |
| 医学部 | 4 |
| 歯学部 | 2 |
| 薬学部 | 2 |
| 工学部 | 5 |
| 環境科学部 | 2 |
| 水産学部 | 4 |
| 医歯薬学総合研究科 | 3 |
| 熱带医学研究所 | 2 |
| 病院 | 7 |
| 原爆後遺障害医療研究所 | 1 |
| 感染症共同研究拠点 | 1 |
| 学生 | 3 |
| 学外者(大学教職員, 学生) | 2 |
| 学外者(小~高・専門学校教職員) | 3 9 |
| 学外者(県・市・町職員) | 6 |
| 学外者(その他) | 2 |
| 計 | 1 3 3 |

[※] 別紙に参加者名簿を添付してください。

10. 実施したFDの成果等

(1) 参加者からの評価 (アンケートの集計結果を記述する)

令和元年度メンタルヘルス講演会 アンケート集計

1. 対象及び回収率

| | | 長大教職員 | | 学外者 | | その他(不明含む) | | 計 | |
|------|-----------|-------|-----|-----|-----|-----------|--|-----|-----|
| 参加者数 | | 81 | | 49 | | 3 | | 133 | |
| 回収数 | 回収率 | 64 | 79% | 40 | 82% | - 11 | | 115 | 86% |
| | 教育職員 | 29 | | | | | | | |
| | 事務職員 | 22 | | | | | | | |
| | 技術職員 | 13 | | | | | | | |
| | 学生その他 | | | | | | | | |
| | 大学職員 | | | 3 | | | | | |
| | 小·中·高校教職員 | | | 17 | | | | | |
| 1 | 県・市・町職員 | | | 5 | | | | | |
| | その他 | | | 15 | | | | | |

2. 昨年のメンタルヘルス講演会に参加されましたか

| | 長大教職員 | | 学外者 | | その他(不明含む) | | 計 | % |
|---------|-------|------|-----|------|-----------|------|-----|------|
| 参加した | 24 | 38% | 1 | 3% | 2 | 18% | 27 | 23% |
| 参加しなかった | 38 | 59% | 39 | 98% | 8 | 73% | 85 | 74% |
| 未記入 | 2 | 3% | 0 | 0% | 1 | 9% | 3 | 3% |
| 計 | 64 | 100% | 40 | 100% | 11 | 100% | 115 | 100% |

3. 参加動機について(複数回答可)

| | 長大教職員 | | 学外者 | | その他(不明含む) | | 計 | 96 |
|-----------------|-------|-----|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|
| 自分自身や家族の為 | 18 | 28% | 10 | 25% | 7 | 64% | 35 | 30% |
| 仕事上必要なので | 34 | 53% | 33 | 83% | 6 | 55% | 73 | 63% |
| メンタルヘルスに関心があるから | 36 | 56% | 21 | 53% | 5 | 45% | 62 | 54% |
| 社会的関心がたかまっているから | 12 | 19% | 12 | 30% | 2 | 18% | 26 | 23% |
| その他 | 3 | 5% | 2 | 5% | 2 | 18% | 6 | 5% |
| 8 † | 103 | | 78 | | 22 | | 202 | |
| 実数 | 64 | | 40 | | 11 | | 115 | |

その他

- 来年の就職のため
- ・FDを受けることが大事だから
- 講演タイトルが興味深かったから
- ・子供の友達に発達障害の子がいるため
- ・学生指導や関わり方などの学習のため

4. 講演会をどのようにして知りましたか(複数回答可)

| | 長大排 | 敗職員 | 学外者 | | その他(不明含む) | | 計 | % |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|
| 長崎大学ホームページ | 24 | 38% | 4 | 10% | 5 | 45% | 33 | 29% |
| ポスター | 3 | 5% | 5 | 13% | 3 | 27% | 11 | 10% |
| Eメール | 41 | 64% | 1 | 3% | 4 | 36% | 46 | 40% |
| 担当者からのすすめ | 4 | 6% | 1 | 3% | 1 | 9% | 6 | 5% |
| 上司からのすすめ | 2 | 3% | 6 | 15% | 1 | 9% | 9 | 8% |
| 友人から誘われて | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% |
| 小・中・高校からの通知 | 0 | 0% | 11 | 28% | 0 | 0% | 11 | 10% |
| 部局からの通知 | 14 | 22% | 13 | 33% | 0 | 0% | 27 | 23% |
| その他 | 1 | 2% | 4 | 10% | 1 | 9% | 6 | 5% |
| R+ | 89 | | 45 | | 15 | | 149 | |
| 実数 | 64 | | 40 | | 11 | | 115 | |

5. 講演の内容は期待に合っていましたか

| | 長大教職員 | | 学外者 | | その他(不明含む) | | 計 | % |
|----------------|-------|------|-----|------|-----------|------|-----|------|
| 期待した内容でとても良かった | 37 | 58% | 20 | 50% | 10 | 91% | 67 | 58% |
| まあまあ良かった | 25 | 39% | 16 | 40% | 1 | 9% | 42 | 37% |
| 期待に添わなかった | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% |
| その他 | 0 | 0% | 1 | 3% | 0 | 0% | 1 | 1% |
| 未記入 | 2 | 3% | 3 | 8% | 0 | 0% | 5 | 4% |
| 計 | 64 | 100% | 40 | 100% | 11 | 100% | 115 | 100% |

その他

[・]強みを生かすための支援について、具体例も踏まえてもっと詳しく聞きたかった

- 6. 今後メンタルヘルスに関する講演でどのような内容を希望しますか
 - ・事例を含めてどのように対応したかなどの話を含めてもらえるとありがたい
 - ・発達症の学生に対する具体的対応に関するもの
 - 具体例を中心に話してほしい
 - ・発達症の生徒への理解・支援についての今日のような講演会は是非
 - 具体的な対応
 - ・より具体的に、こんな時に(行動に対して)、こんな反応を(声掛け)というものを聞きたい
 - 具体的な事例とそれに対する対応などの講演を希望したい
 - ・発達症の人への対応
 - ・具体的な事例(対象の生徒に対して、どのような支援・トレーニングをしたらよいのか)
 - ・もっと時間をかけて詳しく教えてほしい
 - ・大学生・大人の発達症について(特性・対応等)
 - ・成年者の発達症に対する具体的な対応について(ケーススタディ的な紹介があると大変助かります)
 - ・大学の学生にはどのようなタイプが多く、どのような対応をすればいいのか、パターン化して教えてもらえれば 助かる
 - ・継続して今村ドクターの講演を希望。発達症の理解を深めることが大切。ニーズが高い。
 - ・発達障害の人の働き方について、職場での受け入れ方について
 - 職員のメンタルヘルス・スペクトラム障害など(生活・仕事について)・「コーチング」について、もう少し詳しく聞きたい。

 - 指導法や接し方を提供した事例など、事例の中で成功例や失敗例からの改善策なども
 学生に限らず教職員を含めて、グレーゾーンの方のどのように対応したらよいか

 - ・声掛けのスキル、ソーシャルスキル
 - ・ケース会議、事例検討会等
 - 長崎県内でコーチングしていただける場はあるのか、県内の情報(機関、子供、大人)
 - ・発達遅滞と発達症混合型の方への支援について
 - 不登校と発達症について
 - 摂食障害など
 - 睡眠障害
 - ・ストレスコントロール
 - 対人関係について
 - 留学生・外国人のメンタルヘルス
 - メンタルイルネスを対象としたユニバーサルデザイン

7.感想・意見を自由にお書きください

- 各学部でも行ってもらいたい
- ・参考になった。受けてよかった
- ・自身がASD/ADHDと思っている。今の職業について自信が持てなくなっていたが、工夫の方法が見出せそう ・学生のほとんどが何らかのトラウマを持っていたりする中で、どのような接し方が必要か、私たちの理解が 必要と改めて感じた
- ・資料になかったスライドが興味深く、実践に活かせそうだった為全て入れてほしかった。日ごろ接し方で 悩んでいる部分について少し考え方を変えていこうと思えた。またこのような講演をお願いし、学習や ソーシャルスキルのサポート方法を教示して頂きたい
- ・「みんながみんな同じ器ではない」という言葉が印象的だった。発達症に限らず度の学生にもその考えを 持って接することが大切と感じた。教材づくりなども今後気をつけていきたい。・窓口で学生と接する際に参考にさせていただきます
- ・同内容を県立学校(特別支援教育)の研修会で拝聴し、二度聴いてやっと理解が深まった 母校で数十年ぶりに講義を聴いて懐かしい思いにとらわれた。初心を忘れず頑張っていきたいと思う
- -チングの方法をもっと詳しく聞きたかった
- 講演の中で話されなかった資料の所も是非聞きたい

(2) 総 括(10(1)を踏まえFD全体の総括を記述する)

参加者からの評価については、回答者(115名)のうち、「期待した内容でと ても良かった」(58%)と「まあまあ良かった」(37%)を合わせると、回答者 の95%が「よかった」という高い評価結果であった。

今回は、教育現場において関心の高いテーマについてFDを実施したことによ り、学外からの参加者も多く見受けられ、発達症をもつ学生・生徒等に対する理解 が深まり、授業構築のあり方等を学べる有意義な講演会であったものと考える。

11. 実施代表者の連絡先

部 局:保健・医療推進センター カウンセリング部門長

職 名:准教授 氏 名:林田 雅希

e-mail:hmsk@nagasaki-u.ac.jp 内線:2214

12. 申請者の連絡先

部 局:学生支援部学生支援課生活支援班

職 名:班長 氏 名:平 崇人

e-mail:t-taira@nagasaki-u.ac.jp 内線:2102